

東スイス・リシ峰からの眺望

目に見えないものを見る目

信仰は、望んでいることを保証し、
目に見えないものを確信させるものです。
ヘブル人への手紙 11章1節

イースター、主イエス・キリストの御名を賛美します。

こんな話しを耳にしました。

ある日、父親が7歳になる息子に天国はどんな所だと思うか聞きました。息子は何かを思い出すような表情で話しえました。「ぼくの考えだけど、ぼくたちが天国に着いたら、天使が大きな本を見ながらぼくたちの名前を呼ぶんだ。

まず、パパの名前を呼ぶだろうな。そしたら、パパは『はい』と答えてね。その次に天使はママの名前を呼んで、ママも『はい』と答えるんだ。最後に、天使はぼくの名前を呼ぶんだ。そしたら、ぼくはジャンプするよ。ぼくは背が低くて、天使にはぼくが見えないかもしれないからね。それから、大きな声で叫ぶんだ。『ここだよ』って

それから数日後、この家族に悲劇が起こりました。通学バスに乗ろうとしていた息子が車に引かれたのです。明け方、昏睡状態にあった子どもの体がわずかに動いたので、家族みんなの視線が子どもに集中しました。子どもの唇が少しだけ動きました。それは「ここだよ」でした。その子が放った最後

ミッション・宣教の声 主幹
黒田 穎一郎



の一言でした。しかし、それは悲しみの中にいた家族に平安と希望をもたらしました。少年の声はとても明瞭で、みんなにははっきりと聞き取ることができました。

生ける神を信じるキリスト者には、信仰の目でみる世界があります。その世界に対する信仰は、復活の主を経験させてくれます。「**信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。**」望んでいる事がらは保証されると信じ、目に見えないものを見るなら、聖書的視点で現実を見ることができます。

では、どうすれば聖書的視点で現実を見ることができるでしょうか。イエス・キリストはユダヤ教指導者ニコデモに、「**まことに、まことに、あなたに言います。人は、水と御靈によって生まれなければ、神の国に入ることはできません。**」(ヨハネ3・5)と言われました。「水」(悔い改め)と「御靈」(神の靈)によって、素直な心で神の御前に出ることです。私たちは日々、主の前に出て水と御靈によって新しくされます。それが聖書的視点で現実を見ることです。いかがでしょうか。「ここだよ」という、小さな声が聞こえませんか。

コロナ禍の海外邦人宣教 27

南カリフォルニアの日本人伝道の現状 ～コロナが続く中で～

アメリカ西海岸は日本から一番近い地域であり、南カリフォルニアと呼ばれるロサンゼルスを中心とするこの地域にはたくさんの日本人と日系アメリカ人が住んでいます。特に私たちの教会があるガーデナ市やその隣りのトーランス市には日本から仕事や留学で来ている日本人も多くいます。アメリカなのに金髪で青い目の白人はほとんど見かけないというような地域です。日本食のレストランや日本の食材を置いているスーパーもたくさんあり、日本人が住みやすい地域です。日本語の教会もいくつもあります。

コロナ前には多くの日本人の若者が語学留学や大学、大学院への留学で来ていました。しかし、この地域の日本語教会で積極的に日本人大学生への伝道をする教会はありませんでした。理由はいくつかあり、まず教会の高齢化の中で若者への伝道のツールを持たない教会が多かったことが挙げられます。「どなたでもおいでください」と教会の玄関に看板を出しても、若者は集まつては来ません。気持ちはあっても、若者伝道の方法を持っていなかったのです。また、留学生への伝道は時間、労力、お金がかかるのに、数年後には彼らは帰国してしまうので、教会の柱にはならないから本気で伝道しなかったということもあります。



そのような中でガーデナ平原バプテスト教会は、日本人学生伝道を教会のアウトリーチミニストリーと位置づけて行うことを決断し、当時タイで宣教師をしていた私を日本語担当牧師として招聘しました。私はタイでカレン族という山岳民族の間で宣教師をしていましたが、それと並行して世界バプテスト連盟の青年育成部門の責任者として世界中で青年大会、青年リーダーシップカンファレンス、青年担当牧師養成セミナー等をしていました。

2011年9月にガーデナ平原バプテスト教会の日本語担当牧師となりました。すぐにこの地域にあるエルカミノ大学にいる日本人留学生への伝道を始めました。当時約400人の日本人学生がエルカミノ大学にいました。わたしたちは「安心できる場所」「おいしい食べ物（日本食）」「楽しい仲間」を提供すれば学生たちが集まると考えました。自宅に毎週木曜日に学生たちを招いて食事を出し、楽しいアクティビティーをする「J-Night」というミニストリーを始めました。「J-Night」はすぐに成長し、毎週25人前後の学生が集まるようになりました。彼らが次々とイエス様を信じるようになり、教会は2年間に40人の礼拝から80人を超える礼拝へと成長しました。

ガーデナ平原バプテスト教会

牧師 大里 英二

神様の憐みによってガーデナ平原バプテスト教会の日本語礼拝は成長を続け、コロナが始まる前には礼拝出席者は100人前後となっていました。ところが2020年3月、突然教会での対面礼拝がコロナのためにできなくなり、オンライン礼拝へと切り替わりました。はじめは「4月のイースターには対面礼拝に戻れるかな」くらいに考えていたのが、結局1年4か月オンライン礼拝のみとなりました。このコロナによるパンデミックの間に日本人留学生たちは全員帰国してしまいました。

2021年7月に対面での日本語礼拝を再開しました。第一回の対面礼拝の出席者が約50人、コロナ前の半数でした。この時点では日本人留学生たちはまだこちらに戻ってきていませんでした。2022年9月までにはJ-Nightにつながっていた学生たちがだいたい戻ってきました。しかし、帰国してオンラインの授業で卒業してたり、日本で他の大学に転入してしまったり、アメリカに戻ってこない学生たちもいました。せっかく戻って来たのに昨年秋の超円安でこちらでの学業を断念して（親がサポートを続けられなくなってしまった）帰国してしまった人もいます。現在、J-Nightに来る日本人留学生は全員揃っても4人だけとなっています。

J-Nightをスタートした頃の日本人学生と今の学生たちには違いがあるように思います。コロナと共に円安が続く中でアメリカに来ている学生たちの多くは裕福な家庭から送り出されていて、高級車に乗っていたり、頻繁に旅行に出かけたり、生活に不自由していないようです。もちろん中には苦労しつつ学んでいる学生もあり、そういう人たちがJ-Nightにつながるケースが多いです。私たちは裕福な家庭から送り出されている学生達も、苦労しつつ頑張っている学生たちも、一人でも多く救いに導きたいと祈りつつ働きを続けています。

次回は日本人留学生伝道のために今年1月から始めた「E-TIME」というミニストリーについてお伝えします。（つづく）

伝道、プレゼンにも
おすすめです。
おすすめです。

聖書の集い・連続メッセージ
「讃美歌詩・聖歌詩の背景から学ぶ信仰」

多くの人たちに親しまれている讃美歌詩・聖歌詩の背景にある作詞者の信仰に焦点をあてる励ましのメッセージ集です。

第1巻～第10巻 刊行 中綴じB6サイズ ¥500(税別)

ご注文は「ミッション・宣教の声」事務局まで。

その時、
わがたましいは歌う
ミッショング・宣教の声
主幹 黒田 祯一郎

わたしたちは、わたしを遣わされた方のわざを、
昼のうちに行わなければなりません。
だれも働くことができない夜が来ます。

ヨハネの福音書 9章4節

ブリヤート共和国は、モンゴルとの国境にある極東連邦管区に位置しています。バイカル湖の東岸を取り囲み、ヤブロノヴィ山脈まで伸びています。人口約80万人の内ブリヤート人が30%、ロシア人が66%を占めています。他の民族グループとしてはウクライナ人とタタール人がいます。ブリヤート人はジンギスカンのモンゴル帝国に属し、彼の死後もそこに存在し続ける歴史を持っています。昨年2月24日のロシア軍によるウクライナ侵攻では、ブリヤート共和国から多数の兵士が徴兵されました。初めの4週間で、ロシア軍として戦地に送られたブリヤート人兵士の死亡者数がロシア人兵士の5倍となり問題が表面化しました。昨年初夏、パーヴェル伝道師一行12名の「夏季伝道チーム」はそのブリヤートに入り、イエス・キリストの福音を宣べ伝えました。ブリヤート人の多くは福音に一度もふれていません。伝道チームは1千500個の文書パッケージを18の町村で配布しました。次はパーヴェル伝道師からの宣教レポートです。

キリストにある新しい命

私たちはサイグライエヴィスキー地方を中心に、トラクトと小冊子を配布し家々を訪ねました。日中は摂氏33度にもなり、私たちちは日陰を求めて木陰で会話をしました。ブリヤート人は好意的に福音をよく聞いてくれました。彼らの多くが生まれて初めて聖書の話を聞いた、と言いました。中には連絡先住所と電話番号を求める人もいました。人里離れた場所であるクラスニー・ヤール村は、わずか8軒の家屋しかなく、人々は日々生き残りをかけた闘いを繰り広げていました。



トラクトを配布するパーヴェル伝道師

私たちは村人のアレクサンダー氏との会話の中で、神の愛と加護について話しました。彼は大きな課題と必要を抱え、耳を立てて聞いてくれました。彼の妻は癌と診断を受けた後、3人の幼い子どもを残して家出してしまいました。そして一般に「ハリウッド」と呼ばれる歓楽街ウランウデに行き、酒に身を投じ自暴自棄となりました。彼は自分の状況のために祈って欲しい、妻を見つけるのを手伝って欲しいと懇願してきました。その後、私たちがウネゲティ村で集会していた時、驚いたことに彼は私たちを訪ねてきました。私たちは彼と一緒に昼食をとりながら話しました。多くの疑問を抱えた彼は、本当に悩んでいました。彼にとっては、神との新しい生活を始めるに際し、神は本当に助けてくれるかどうかでした。そこで私たちは彼に神は常に応えてくださり、神の子どもを助けてくださると伝えました。伝道チームの兄弟たちは神が自分たちをどのように変え

てくださり、守ってくださったか証をしました。会話の後、私たちは彼と共に祈りました。するとアレクサンダーは神に自分の罪の赦しを求め、イエス・キリストに人生を捧げる決心をしました。それはすばらしい感動の時でした。

釣りから福音へ

ウラン・ウデ市近くのニジニエ・タルジー村で、私たちはバイクで釣りに来ていた老人(83歳)に出会いました。私たちは彼に「釣れますか」と尋ねたところ、彼は運が悪く何も釣れないと言いました。そこから私たちは彼に、一晩中魚を捕まえようとしたイエスの弟子たちの失敗の話をしました。主イエスが船の右側に網を投げるよう命じられ、それに従ったとき彼らは非常に多くの魚を捕ったストーリーです。私たちはこの話を用いて老人に福音を語ることができました。神と共に生きるとは、神を崇拝し神のみことばを読み、神との交わりを持つことであると伝えました。そして私たちが神の前で悔い改めるならば、神は私たちの漁獲物だけでなく、人生全体を祝福してくださると伝えました。私たちはキリストにある漁師として、家から家へと巡り歩き、主のための「魚」を捕まえるために「網」を投げ続けました。主イエスは私たちに、そのような幸いな機会を与えてください、私たちは主をほめたたえました。



ブリヤート国境表示塔前に立つ兄弟たち

自殺未遂は失敗

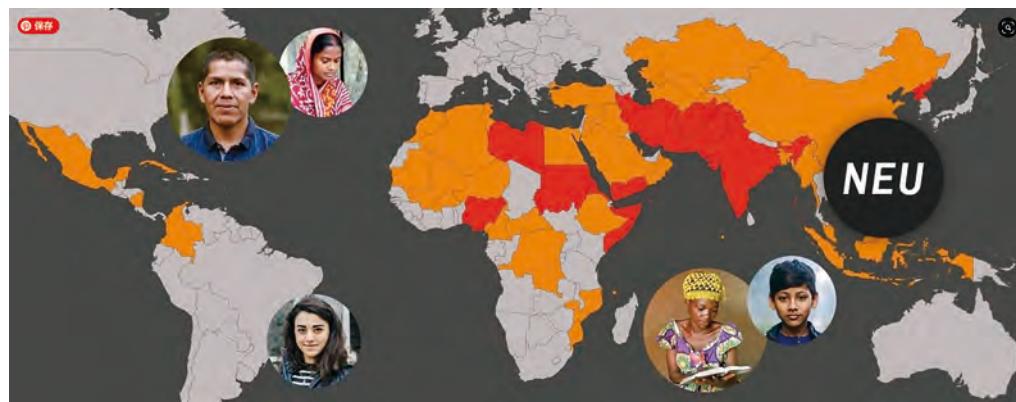
私たちはペルヴォメヴカ村である女店員と会話をし、神は私たちを愛しておられ、一人として滅びることを望んでおられないと言いました。すると彼女は突然泣き叫びました。彼女は1年前、自分の命を絶とうとしたことを打ち明けてくれました。当時、彼女は妊娠中の身で首吊り自殺を考えていましたが、間一髪で助けられました。意識不明となっていた彼女は、2日間昏睡状態でした。その間、彼女は暗い恐ろしい人影が自分に向かって歩いてくるのを見た、と言いました。しかし光るロープを持った別の影が近づいてくると、その黒い影は姿を消しました。そのような経験後に、女性は昏睡状態から目覚めました。彼女は神が自分を憐れんでくださり、死から救ってくださったことが分かりました。そして胎の子も元気に生まれました。最後に、私たちはこの女性と共に祈りました。魂の真の平安は神から受けることができると伝え、キリストの福音全体を彼女に語り伝えたのでした。

このようにして、私たちの2千300キロメートにわたる宣教旅行は、毎日のように新しいことが起こりました。神は生きておられ、信じる者にご自身を現してくださいました。どうぞ、ブリヤートの人々の救いのためにお祈りください。

(つづく)



トラクトを受け取るブリヤート人たち



今、私は、あなたがたのために受ける苦しみを喜びとしています。

私は、キリストのからだ、

すなわち教会のために、自分の身をもって、
キリストの苦しみの欠けたところを満たしているのです。

コロサイ人への手紙 | 章24節

生ける神を信じる聖徒と教会は、イエス・キリストが来られ教会が誕生して以来、絶えず迫害の渦中に置かれてきました。そしてその苦難は現在も続いています。迫害、この言葉は私たちが聞きたくない言葉の一つですが、教会史を見るならば、迫害に目を閉じて通過できないことは明白です。聖書を読み進んでいくと、初代教会時代の聖徒たちは例外なく迫害と苦難に出会ったことが判ります。それにも関わらずキリスト者と教会は倒れることなく、現代まで生き続けています。私たちの信仰は苦難を受けて消滅するようなものではなく、苦難を通過し磨かれ研ぎ澄まされる宝物のようです。聖書は、この戦いを次のように記しています。「光は闇の中に輝いている。闇はこれに打ち勝たなかった。」(ヨハネ1:5) 光であるイエス・キリストを信じる聖徒は人生の勝利者です。

忘れられない「出会い」

私が迫害下にある聖徒とキリストの教会に重荷が与えられたのは、今から約50年以上も昔のことです。当時、私はドイツの大学に留学中の学生でした。ある時、クリスチャンの友人に誘われ、ソ連邦シベリアから帰還直後のロシア系ドイツ人の教会へ行きました。機関銃のように火を吹くようなメッセージ、涙を流して捧げる神への賛美、そして何よりも自由の中で集会を開ける恵みに感謝する姿勢に、強く打ちのめされてしまいました。それまで私はそのような聖徒を知りませんでしたので、あのインパクトは鮮明に記憶に残っています。それからロシア、ルーマニア、モルドバ、ウクライナ、ポーランド、ハンガリー旧ユーゴスラビア等の旧東欧諸国に入ると、聖徒たちは迫害の中でも命をかけた信仰を持っていることを知りました。何よりも生きて働いてくださる主を仰ぐことができました。聖書、信仰書、食料、医薬品と生活必需品等を現地に運び届ける働きを始めました。それは、ただ神の恵みで私の共産圏伝道のはじりとなりました。

「なぜ」、迫害が

では、なぜキリスト者と教会は迫害されるのでしょうか。その答えは実に簡単です。それは聖書が語るように、闇が光を憎んでいるからです。イエス・キリストも世から憎まれ迫害を受けられました。悪の力は光を憎み続け今まで続いているが、闇は光に勝利できることは明らかです。

世界の迫害インデックス

ここに世界的宣教団体「オープン・ドアーズ」が発表した「ワールド・ウォッチ・インデックス、2023年」があります。そこには迫害度を色分けし、迫害度の高い上位50ヶ国が上げられています。赤色は「迫害度が非常に高い」(11カ国)、黄土色は「迫害度が高い」(39カ国)です。迫害度の判定は6つのスコア(個人生活、家族生活、社会生活、国家、教会生活、暴力の発生)から、迫害度をポイント制でまとめ順位を決めたものです。このインデックスによれば、50カ国で3億6千万人以上のキリスト者が迫害を受けている。同団体は毎年このようなインデックスを発表し、世界中のキリスト者と教会にアピールしています。

「宣教の声」も創立以来40年以上にわたり、世界のキリスト者と教会の迫害の実態を伝えてきました。それは何よりも私自身が主様から重荷が与えられたからです。これまででも多数の兄弟姉妹と教会が、世界の同胞を覚え祈り勞してくださいました。それはキリストのからだに結ばれる者の姿です。聖書は「あなたがたはキリストのからだであって、一人ひとりはその部分です。」(コリント12:27)と教えています。普遍的教会の一部として、同じからだにつながるもので、身体の各器官が互いに結ばれて生きるように、キリスト者も互いにつながり生きるもので、それは主が願っておられる御心であります。

天の御国での食卓

ルーマニアのチャウセスク独裁政権時代、私は度々ルーマニアに入りました。当時はまだ、キリスト者への迫害度が高い時代で、多くの困難がありました。しかし主様はいつも私の側にいて、助けくださいました。ある時、ブラザレン集会(当時は推定で約6万5千人以上のキリスト者がいた)のドミトレスク総幹事は、外国人との接触が監視されていたにも関わらず、キリストのからだに結ばれる者として最大のモテなしをしてくださいました。そして彼は口癖のように語っていました。それはやがて入る天の御国のことでの聖句でした。「人々が東からも西からも、また南からも北からも来て、神の国で食卓に着きます。」(ルカ13:29) 彼の信仰の視点は、そこにありました。

いかがでしょうか。私たちの信仰の視点はどこにあるでしょうか。やがて天の御国で同じ食卓につく者として、迫害と苦難下にある聖徒を祈り覚えようではありませんか。迫害下の聖徒たちは、今日も次のように叫んでいます。

「キリスト・イエスの立派な兵士として、私と苦しみをともにしてください。」(IIテモテ2:3)

迫害下にある聖徒の叫びが聞こえてくるではありませんか。

アフリカ

「なぜ、人はテロリストになるのか」というテーマに対し、国連の開発プログラム委員会はアンケートによる実態調査をしました。その報告によれば、アフリカでテロリストの過激派集団に入る人々の最大原因は貧困と失業にあることが判明しました。調査はアフリカ8カ国において、2,200人のテロリストに対して実施されました。回答者の40%が緊急する生活問題を上げました。25%が雇用機会の欠如としてテロ集団に加わったと答え、宗教的理由と答えた人は17%でした。同時に、テロリストたちは宗教に関するわずかな知識しかないことも明らかになりました。国連開発プログラム部門責任者アヒム・シュタイナー氏は、「今後、暴力による過激思想の世界的中心はサハラ砂漠の南部になるであろう。」



モガディシュのテロ事件現場

と語っています。これから貧困、悲惨、労働機会の欠如などが起こっている領域では、状況が悪化すると思われます。どうぞ、お祈りください。

トルコ・シリア

2月6日、トルコ南部で発生したマグニチュード7.8の地震で、現地では想像を絶する被害が出ています。その後もマグニチュード6クラスの余震が続き、多数の人々が不安の中に置かれています。これまでに死亡者が確認されたのはトルコとシリアで合わせて5万人を超えた(2月末現在)が、この数字は今後さらに増えるものと思われます。



マラティヤでの野外テントの被災者たち

現地には世界各地からの救援隊が到着し被災者の救出に全力が投じられていますが、国際災害救援団体である米国の「スマリタンズ・パース」は、地震発生後の10日に現地に救援隊を派遣しました。生活必需品はじめ医薬品を速やかに搬送し、2つの手術室と52床を持つ簡易病院を直ちに設置しました。そのような中、ハタイ県では地震発生後296時間して40歳代の夫婦が救出されました。一方、内戦下のシリアでは反体制派が支配する北西部で、政府側の妨害で支援が思うように進んでいません。今回の大地震発生後、ヨーロッパの多数のキリスト教



アレppoのアルメニア人教会に集まる被災者たち

会と宣教団体が立ち上がり支援を開始しました。まだまだ先が見えない救援・支援活動は続きますので、どうぞ祈り覚えてください。

ニカラグア

中央アメリカに位置するニカラグアは人口約670万人ですが、信仰の自由が大きく制限されています。この度、カトリック教会の4人の司祭と2人のセミナー講師、そしてカメラマンに、それぞれ10年の刑が言い渡されました。判決理由では、誤った情報の拡散と政府への陰謀があったと宣告されました。裁判は一般人を

排除して行われましたので、人権委員団体(CENIDHマナグア)は激しく抗議しました。さらにロナルド・アルヴァレツ司教は、刑が26年に延長されてしまいました。ニカラグアはクリスチヤンへの迫害度が増しています。2018年以来、左派のダニエル・オルテガ大統領への批判と抗議デモが続いています。人口の45%はカトリック教徒。38%がプロテスタント教徒です。どうぞお祈りください。

北イラク

IS(イスラム国)によって完全破壊された6世紀からあるバトナヤのカルデア人のカトリック教会は、このほど復興工事が完了し教会堂が復興しました。「これは全ての民に希望といのちを与えてくれた。」とカルデア・カトリック教会のパオロ・タビト・メッコ司教は語りました。ドミニカ人によって再建された修道院は、海外からの支援によってできました。そして2022年末からISによって追放された聖職者たちが、再びバトナヤにある教会と修道院に戻ってきました。それはキリストの教会には未来がある証しです。メッコ司教は「聖職者たちが帰還したことは、大きな励ましである。」と語り、ISによって海外へ避難していた住民たちに帰還を勧めています。2014年夏のIS侵攻によって、イラク北部のクルド人地域に避難していたニネベ平原の約12万人は、戻ることができます。事実、これまでに約半数が帰還しています。カルデアのカトリック教会はローマ・カトリック教会と繋がりを持つ東方教会です。イラク、シリアの164教区に50万人以上の信徒がいます。



聖ヨセフ修道院の開所式

ミャンマー

カトリック教の国際支救援団体「キルヘ・イン・ノート」によれば、ミャンマーでは過去2年間に、130以上の宗教的建物が破壊されたことが分かりました。多数のキリスト教会や仏教寺院やパゴダ等です。2021年2月1日、軍最高司令官である国家行政評議会議長ミン・ウン・フライン大将が全土を制圧し、それ以来抗議する市民と政府軍との間で戦闘が繰り返され市民戦争となっています。キリスト教徒が多いチン族、カヤー族、カレン族では多くの迫害があります。中でもカヤー族では19の教会堂が破壊され、他の建物も壊されました。どうぞ、お祈りください。

ドイツ

ドイツ経済の要であるノルドライン・ヴェストファーレン州(州都:デュッセルドルフ)に国教会からの脱会者数は、昨年記録的な数字となりました。2022年の脱会者数は22万3千509人、その前年は15万5千322人、一昨年は8万9千694人でした。これは州司法省の発表ですが、これまでにない多数の教会脱会者数に関係者は不安を隠せない状態です。これで過去10年間に、同州だけで119万3千444人が教会から教会籍を外したことになります。同州では脱会に際して、地方裁判所での承認が必要ですが、そのプロセスを経てこれだけ多数の脱会者があったことは深刻です。脱会理由としてはいろいろありますが、最大の問題は同州の靈性が課題であると考えられます。どうぞ、お祈りください。

コンゴ

国連によれば、世界には約25万人もの少年兵がいると言われます。その中でもコンゴ共和国は少年兵が前線に送られていると言われています。コンゴでは130以上の武装集団が数十年に渡り、権力と天然資源獲得の闘争を繰り返しています。少年兵が生まれる背景には、誘拐によって連れて来られたり貧困から自主志願したりするケースがあります。少年たちは犠牲者もありますが、一方では犯罪者ともなっています。この少年たちが大人となった時、過去に受けた傷から逃れようと酒や麻薬を手にするケースが多いと言われます。国連は2007年から2020年までに、約6万5千人の少年兵を解放させました。コンゴ政府も少年兵の解放に努めています。



小銃を手に握る少年兵

が、思うようには進んでいません。現地の孤児院「ハウス・オブ・グレイス」で働いていたドイツ人のケルステイン・ヴァイス宣教師は、「子どもたちは愛に渴き、自分を受け入れてくれ人を求めていた」と語っています。そして子どもたちを真に助けるには、イエス・キリストの愛による以外にないと語っています。どうぞ、お祈りください。

スペイン

1月25日、人口約12万人の町アルヘシラスで、モロッコ出身のイスラム教徒が「マチーテ」(南米の山刀)を持って、2つのカトリック教会を襲撃しました。犯人は「アラーの神」と呼び会堂に入り、イスラム教への改宗を叫びました。この事件で教会堂管理人が死亡し、2人が負傷しました。犯人は警察に逮捕されましたが、過激なイスラム思想家として、以前からマークされていた人物でした。残念ながら教会で突然の殺人事件が起り、平和な町で住民たちは不安に包まれました。お祈りください。



管理人の死を悼む人々

アフガニスタン

タリバン政権が国を支配して以来、クリスチャンへの攻撃が激しくなっています。タリバン兵士は家々を訪ね、クリスチヤン一掃作戦を行なっています。タリバン兵士に見つかれば、ほとんど命はありません。一方、例年ない食物不足から来る飢餓と非常な寒さで、死者も出ました。国際支援団体「ヒュウメディカ」のゼバスチアン・ツアウシュ代表は、アフガニスタン山間部の今冬はマイナス33度まで下がり、死者も出ました。それに経済破綻によって暖房用の燃料も手に入らず、人々は非常に厳しい冬を迎えたと言います。どうぞ、お祈りください。

マラウイ

マラウイ共和国はアフリカ南東部に位置する内陸国で、人口1989万人です。世界のマスコミはウクライナ戦争、コロナ感染症、それにトルコ・シリア大地震を取り上げて支援を求めていますが、それは正しいことです。しかし国際支援団体「ケアー」は、アフリカ最貧国マラウイも、忘れないで欲しいと涙ながらに訴えています。大多数の児童は学校で授業が始まるのを心から待ちています。彼らは学校で朝食をとり、喜びを体全体で現し踊りながら声高らかに歌いつつ、教室に入り授業に入っていました。ところが昨年11月から、子どもたちの元気のいい声が聞こえなくなりました。理由は秋の農作物収穫期が不作であったからです。現在、子どもたちは朝食を取れずに登校しています。ある子どもたちは体力が低下し、運動や授業に参加できないほどです。これがマラウイの子どもたちの現状で、このまま進めば子どもたちの37%は栄養失調になるとされています。現在、アフリカで食物不足から支援が必要な国々は次です。アンゴラ、ザンビア、中央アフリカ共和国、チャッド、ブルンディー、ジンバブエ、マリ、カメルーン、ニジェール等です。

ドイツの宣教団体「リーベンゼラ宣教会」は、そのマラウイに重荷を持ち、宣教師を送り彼らへの支援活動を進めています。国民の約70%が農業に携わる国だけに事態は深刻です。同宣教会は、ただ体に必要なパンを提供するだけではなく、心の糧である命のパンも配布しています。その祝福である結果が現れました。それはイスラム教徒の子どもが、死の床で命のパンであるイエス・キリストを受け入れたことです。非常な苦難の中でも、体と心に必要な命のパンを与えていた宣教師たちの働きを祈り覚えてください。



編集後記

- 主イエス・キリストの復活を心から感謝します。全世界で復活されたイエス・キリストの御名が讃美され、そして崇められますように。
- 今号の海外邦人レポートは、米国ロスアンジェルス・ガーディナ平原教会の大里英二牧師です。愛労に感謝します。今月の「北朝鮮からの叫び」はお休みし、クリスチヤンの迫害について書きました。お読みください。
- いつも祈り、そしてご支援をくださり読者の皆様に感謝とお礼を申しあげます。今月も機関誌をお届けできる幸いに感謝しています。感謝。



ミッション・宣教の声
The Voice of Mission

発行人 黒田禎一郎
年間購読料 ¥2,500(送料込)
1981年12月初版発行(毎月1回1日発行)

〒541-0041 大阪市中央区北浜2-3-10 VIP 関西センター 5F
TEL 06-6226-1334 FAX 06-6226-1336
E-mail senkyo@vomj.jp URL http://vomj.jp/

The Voice of Mission
MUFG Bank,Ltd. Sakaihigashi Branch
Bank account No.3623132 SWIFT CODE : BOTKJPJT



■郵便振替口座 00940-3-301623
■銀行口座 三菱UFJ銀行 堺東支店(店番205)
普通口座 3623132 「ミッション・宣教の声」

Bank Address : 59-2 MIKUNIGAOKA-Miyukidoori,Sakai-ku,
Sakai-shi,Osaka-fu 590-0028 JAPAN TEL:81-72-221-3041